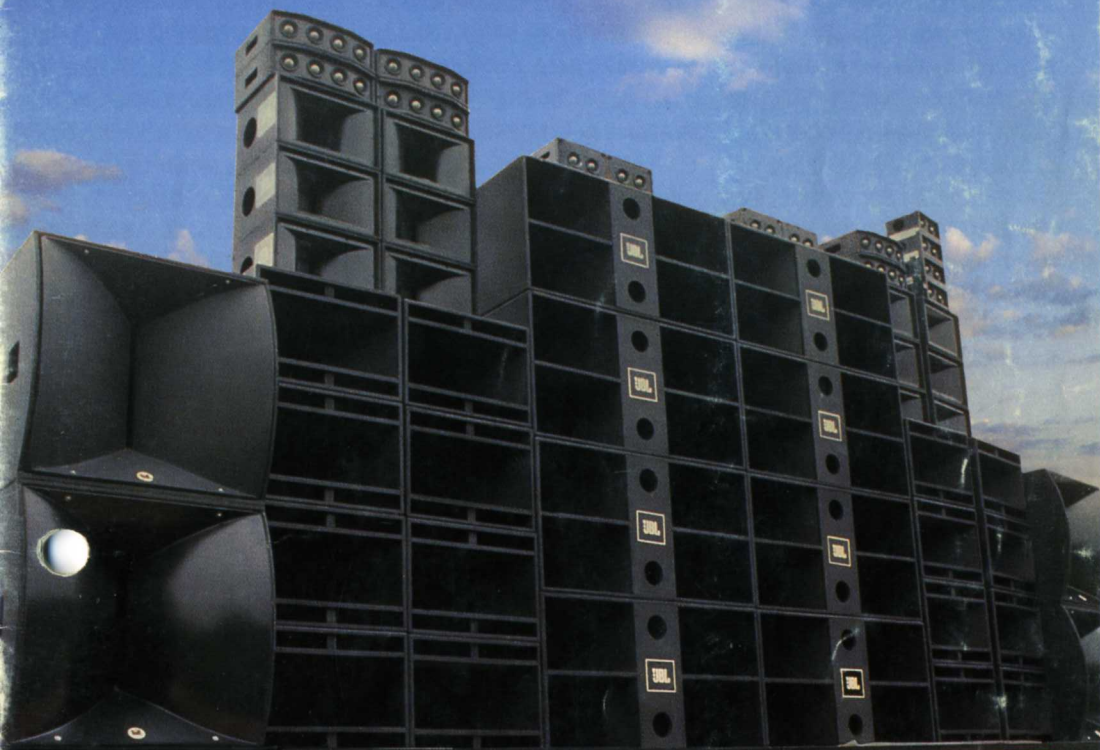


# JBL Loudspeaker Systems & Components



Powered by **JBL**





# The JBL Way

JBL社を設立し今日のスピーカー技術の基礎を築いた男、"ジェームス・B・ランシング"。JBLの名は彼のイニシャルに由来するものです。1902年、イリノイ州に生まれた彼は生来の科学好きで、少年時代には世界でもっとも早い時期にラジオ送信機を製作、天才ぶりを発揮しています。そして、22歳の年にケン・デッカーと出会いスピーカーづくりを志すことになりました。かたくなに妥協を拒み常に完璧を志向した彼は、その生涯を音に捧げてゆきます。

■1927年、スピーカー造りの第一歩が始まった。ランシングとケン・デッカーの2人は1927年にロサンジェルスに移り「ランシング・マニュファクチュアリング社」を創立しまし

た。時はまさにトーキー時代を迎え、若き天才エンジニア、ランシングも大きく飛躍することとなります。その頃MGM映画社から劇場用スピーカー・システムの製作を依頼された彼は、全力を傾注してついに1934年、そのシステムを完成しました。38cm径ウーファーのダブルホーンとマルチセラーホーンによる大型劇場用2ウェイ・システムは「シャラーホーン・システム」と呼ばれ、1936年には映画芸術科学アカデミー賞を受賞し高い評価を得たのです。さらに、翌年完成した小型システム「アイコンック」も大きな成功をおさめ、JBLサウンドの原点を確立するとともに彼の名を広く世界に知らしめることとなりました。

■1946年、ジェームス・B・ランシング社設立。第2次大戦が終わって間もない46年に彼は自らの理想を貫くためジェームス・B・ランシング社を設立します。そして翌年、彼は38cm径ワイドレンジユニットの傑作D130を生み出したのです。D130は100%エッジワイズ巻きボイスコイル、空気成型アルミセンタードーム、アルニコVを使用した強力磁気回路など画期的な技術により完成度を極めました。そして、D131、D208、175などを続けて完成。その基礎技術と精神は今なおJBL製品に息づいています。

■JBLの歴史を創りあげてきた名器たち。1954年に誕生したD30085「ハーツフィールド」によりJBLの名は一躍世界に轟くこととなります。翌年ライフ誌の表紙を飾ったハーツフィールドは「究極のスピーカー」と絶賛されたのです。38cm径の150-4Cウーファー、金色に輝く537-509ホーン・レンズと375ドライバーを優雅なフォル

ムに納めたこのシステムは、JBLクラフトマンシップの具象化といっても良いでしょう。また、ステレオLPが出現した1957年にはオールホーンのステレオスピーカー「パリス」が登場します。木工の芸術品とも呼びたくなる優美なスタイルのパラゴンは20余年を経た現在でもJBLの象徴的システムとして君臨し続けているのです。1962年にはJBLスタジオモニターの原器C50SMが完成します。そして、これらの経験を通して得られた多くのノウハウと高度なテクノロジーを具現化し71年にはプロフェッショナル・シリーズが発足、後に世界中のスタジオを席巻してしまいました。

■時代をつねにリードする最新鋭モデル。80年代に入ってもJBLは躍進し続けています。広帯域化のため3-4ウェイが主流となった現代においてもJBLは4435、4430によって新たな2ウェイ・モニター時代を築き上

げました。またプレイバック・モニターの最高峰4355は、デジタルエイジにふさわしいフューチャーで偉容を誇っています。一方コンシューマー機の新たなフラッグシップとして登場したTiシリーズは、ハーツフィールド・パラゴン以来のJBLホーム・スピーカーの新しい流れとしてデビューしました。

■JBL製品を生み出す伝統のマニュファクチュア。JBL社はロサンジェルス郊外のノースリッジに本拠を構えています。まるで緑地公園のような景観の敷地に見事なまでに調和した本社工場からすべてのJBL製品が生み出されているのです。製品の構成パーツはもとより、それらに必要な治工具類まで自社で製作しています。ボイスコイルの巻線技術をマスターするにも8-10年、機械では今だに不可能な精度を、鍛えあげられた手の技がしっかりと支えているのです。これは一切の妥協を嫌ったランシングの思想を正統に継承するものといえましょう。

■ランシングを受け継ぐJBLテクノロジー。JBLテクノロジーの基礎は、ほとんどがランシングによって築かれました。そればかりか今日のスピーカー技術の大半が彼の手によるものといえましょう。エッジワイズ巻きボイスコイル、切削加工の強力磁気回路、コンプレッション・ドライバーなど枚挙にいとまがありません。もちろんその先進性は今日のJBL製品にも受け継がれているのです。たとえばマグネットのフェライト化にともなう開発されたSFG磁気回路は、アルニコV以上の磁気特性を得ると同時に驚異的な低歪率を実現しました。また、ユニークな形状のバイラジアルホーンは広帯域にわたって均一な指向特性を確保しています。さらに、コンプレッション・ドライバーのダイヤフラムにはダイヤモンド・サスペンション構造とピュアチタンを採用し高域特性の向上を図るとともに信頼性も格段に高めることができました。



